

Zaitoune Meknèssa

Meknès of the Olives

モロッコでの活動レポート



リアド ジトゥーンセンターで行われた卒業試験（2023年6月15日）

L'examen de diplôme —活動について Vol.2

IT コースの卒業試験

モロッコでは、6月が学年末になります。そのため活動先のセンターでも、ITコースを始めとする、各コースの卒業試験が行われました。

ITコースの教室には、PCが20台ありますが、5台は故障中。内2台を直前に修理し17台で60名の生徒を4グループに分け、8:30から18:45まで、一日がかりで卒業試験を実施しました。

試験直前の時期は、生徒も講師も必死です。授業時間をオーバーしたり、WhatsApp グループで追加資料の共有を行ったりしました。出来なかったことができようになる喜びを感じた生徒の嬉しそうな顔を見たとき、私も一緒に嬉しくなりました。

試験当日、私は試験監督をしながら、PCの設定が意図せず変更された生徒の対応などを行っていました。生徒は問題を解くために真剣です。カンニングのつもりなく他の生徒に聞いたりします。私にも平気で答えを聞いてくるので、笑ってしまう光景が何度もありました。

また、試験実施中のITコースの教室に、料理コースで作られたお菓子などが運ばれてきて、試験をしている生徒の横で食べるように言われ、困惑しましたが、開き直って食べました、日本ではありえない状況もありました。



サラーム アレイコン
Salam alikom !

新年明けましておめでとうございます。中川可奈子と申します。

----- JICA 海外協力隊

香川県善通寺市育ち、東京のIT通信企業を退職。現在モロッコで6番目に大きな都市「Meknès」で、「PCインストラクター」として活動しています。



【要請内容】

派遣国：モロッコ

任地：メクネス

職種：PCインストラクター

配属先：国民共済事業団メクネス

支局及び市内の職業訓練センター

要請内容：モロッコは堅調な経済成長を続ける一方で、都市部と地方部の社会的・経済的な格差、とりわけ地方での若年層の高い失業率といった課題を抱えています。このような就労機会の差を是正するべく、各種職業訓練コースを提供し、知識・技術の習得を促す事業が進められてきました。しかし、個々の就学レベルのばらつき、経済的理由などにより訓練途中でドロップアウトしてしまうという課題もあり、ITコースの充実化のため、様々な改善や就職率の向上を目指した支援が求められています。

IT業界の仕事についてのプレゼンテーション —活動について Vol.3

LA PRESENTATION



卒業試験の翌週、生徒向けに私からプレゼンをする機会を頂きました。私のキャリアの紹介を通して、“IT業界の仕事について”話しました。どのような業界や職種があるか、また今後スキルアップしていく上で、どのようなソフトウェアやプログラミング言語があるかなど。次にITを学んで、どのような場所で働き、自らが活躍できるかを想像してもらえよう“Smart World”につ

いて話しました。モロッコでも、マラケシュやタンジェなどで“Smart World”の事業が、進められています。このことに4年前、旅行に来た際に気付き、この国のポテンシャルの高さに惹かれ、これからこの国で活躍する若者のIT育成に携わりたいという思いにつながっていきました。





リアド ジトゥーン センターで行われた3者協議会（2023年6月22日）

モロッコ料理の紹介
Introduction de la cuisine marocaine Vol.2

朝食 PETIT-DEJEÛNER

モロッコと言えば“朝食”も楽しみの一つです。

カフェに行くと数種類の朝食セットが用意されており、モロッコを味わえる朝食セットは、“ムスンメン”（外はパリッとパイの形で、中はもちっとした重ねられた生地で作ったモロッコの伝統クレープ）“バグリール”（表面に穴が開いているのが特徴のしっとりパンケーキ）“ハルシャ”（全粒粉で作ったイングリッシュ・マフィンの様なパン）などと一緒にはちみつ、ジャム、クリームチーズとアムルー（アルガンオイルで有名なアルガンの実とナッツのペースト）が添えられ、デーツやオリーブなどと、オレンジジュースと温かい飲み物が並びます。



近所にあるカフェではティーシャと言うハーブの香るミルク粥が添えられ、私のお気に入りです。

PLAN D’ACTION —活動について Vol.4

私の活動計画の発表

JICA海外協力隊員の活動には2年間で5回の報告書の提出があります。2回目の報告では、隊員とJICAモロッコ事務所と配属先である国民共済事業団メクネス支局及び市内の職業訓練センターの関係者で協議会を開催。同僚講師による授業の視察や演習補助を実施した所感について、そして私の今後の活動計画を発表しました。何より、これらの資料作成や発表をフランス語で行うため、自分の資料の量に苦しめられました。しかし、現状を良くしようと主要な関係者が集まる貴重な機会でもあり、手を抜くわけにはいきませんでした。うまく伝わったかどうかは分かりません。しかし、各人それぞれが私を理解し、今後のために、熱い議論に花が咲いていました。

【主な活動計画の内容】

1. Meknès 市内にある他のセンターのITコースを視察&活動場所の拡大等の検討
2. RiadZaitoune センターでの活動
3. 受講後から就業の間のサポート支援
4. 定員を超える入学希望者やセンターへのアクセス困難な更なる社会的弱者向けの対策
5. 日本語や日本文化イベント及び支局スタッフへのITスキル向上講座など

Promenade dans la ville de “Meknès”

私の任地“メクネス”の街歩き —Vol.2

ZAITOUNE MEKNESSA



私の任地であるメクネスの街を歩いていると、つつい足をとめてしまう楽しみがあります。店主の手から次々と油の中へ放たれるドーナツの生地。クルクルとひっくり返され手渡されます。シンプルな昔ながらの揚げたてドーナツです。



街を歩いていると季節の果物が並べられたリヤカーのおじさんに出会います。いちじくやびわ、柿など日本を懐かしく思う果物を始め、写真のような初めて見る果物を目にする事もあります。これはサボテンの実で、その場で皮をむいてくれます。桃やぶどうは本当に美味しく、安く手に入るので、季節が終わっても食べられるように冷凍保存しています。



迷路のようなメディアナ(旧市街地)を歩き疲れると煙がモクモクと美味しそうな匂いを運んできます。



これは“ハムラース”と言う羊肉のサンドイッチです。柔らかく煮込まれた羊肉がホブスと言うモロッコのパンに挟まれ、スパイスで味付けされただけのシンプルなものです。いつも買い物帰りについつい呼ばれて、頬張りながら帰路に着きます。





スペインのグラナダにある“アルハンブラ宮殿”を一望できる展望台からの夜景(2023年8月)

任国外旅行 2023 l'été 夏 —いくつか条件や制限がありますが、任国外へ旅行が可能です。

PORTUGAL/LISBOA ポルトガル リスボン

酷暑の任地を旅立ち、まず初めに訪れたのは、ポルトガルの首都リスボンでした。初めての訪問ですが、久しぶりのヨーロッパの街並みや雰囲気、無印良品やAFURIラーメンなどの日本も堪能しました。また、数年ぶりに友人と再会でき、イスラム文化の残る建造物のレストランを案内してくれました。



傾斜面や街中の移動に行き来するレトロな路面電車は、街をテーマパークの様に演出していました。また、街中で見つけるタイルや扉・窓などが可愛く、たくさん写真を撮り歩きました。

SPAIN/GRANADA スペイン グラナダ

グラナダを訪れることとなった、きっかけはコロナ禍で見た韓国ドラマでした。調べているうちにイスラム文化が残る街並みを歩いてみたくなりました。



街を歩き始めると聞き覚えのある言語が聞こえます。モロッコの言葉で声をかけてみました。明らかに日本人の私がモロッコからグラナダを訪れていることに、彼らも大変驚いて、あっと言う間に人々に知れ渡りました。そして、観光についてはもちろんのこと、イスラム王朝が衰退し年月を経て、イスラム文化の残るこの地に再びこうして多くのモロッコ人が生活していることを教えてくれました。ここでも彼らは、私にドリンクなどをプレゼントし、モロッコ人のマルハバ精神に心温められました。



La cuisine japonaise

モロッコで日本食 —VOL.2

モロッコの肉事情

任地では、七面鳥の挽肉はありますが、鶏挽肉はありません。鶏肉を自分で挽肉にし、餃子の皮は手に入らないので自作するしかなく、ライスペーパーで包み、パクチーチキン餃子を作りました。また同様に薄切り肉もありません。牛肉をブロックで購入し、冷凍後薄切りし、牛丼を作りました。



手打ちうどん

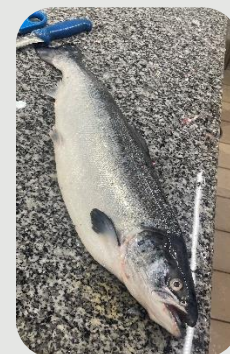
モロッコのパン作りには全粒粉やセモリナ粉が使われます。フランス語とアラビア語で書かれたパッケージは、白い強力粉がどれか分からない上、最小単位は5Kg…。何度も躊躇していましたが、遂に5Kgを購入し抱えて帰りました。



開封して白い粉である事を確認し、薄力粉と混ぜてうどんを打ってみました。茹で上がると薄力粉だけで作った前回とは明らかに違ううどんが出来上がり、嬉しかったです。とは言え、まだまだ改良の余地と私のうどん打ち技術の向上が必要です！

生サーモンの入荷！

任地は海なし県。新鮮な魚を手に入れることは諦めていました。しかし、週2回新鮮なサーモンが入荷することが分かり、入荷日に行くと必ず声をかけてくれます。そして、奥から一番いいサーモンを出してくれます。





モロッコにイスラム教をもたらしたムーレイ・イドリスが築いた聖なる街

Mon petit voyage 任地・任国内旅行 - Vol.1

----- MOULAY IDRIS ZERHOUN



夏のある日、友人に連れられ普段生活するメクネスの街から車はぐんぐ

んと遠ざかり、爆走する。途中、どこに行くのか尋ねるも、聞き慣れない地名を告げられる。下り立った場所は、メクネス市内から車で30分ほどの場所にあるムーレイ・イドリス。山の上に街が築かれており、山及び街の名前を“ゼルフーン”と言ひ、地元の人々はこちらを使っている。聖なる都市と



聖域としての地位のため、非イスラム教徒は立ち入り禁止という時代もあったそうです。（現在は霊廟があるモスク以外は観光可）

緑色の屋根の建物がムーレイ・イドリス廟。モロッコにイスラム教をもたらしたムーレイ・イドリス1世が眠っており、毎年

8月にはムセム(宗教的な祭り)のため、モロッコ中からイスラム教徒が巡礼に訪れます。イドリス1世の息子で



あるムーレイ・イドリス2世は、重要都市フェスを設立。首都になりました。そのため、イドリス2世はフェスのメディナの中で眠っています。

Eid al-Adha

----- 犠牲祭 2023

今年の卒業試験シーズンが終わった翌週には「犠牲祭」がありました。あつと言う間に人々の頭の中は「羊」のことばかり。今年の羊は十分にあると言ったかと思うと飼料等の高騰で価格が値上がりしていると近所でもタクシーの中でも、羊の話でもちきりでした。



この日のために、人々は家族・親戚と過ごすため大移動です。私は、ずうずうしく友人宅にお邪魔させていただきました。

当たり前のことですが、日本では見ることのない光景です。生きていた動物が目の前でめられ捌かれていく光景を、足をワタワタさせ、声を押し殺して見ていました。羊をめる作業は肉屋がハラルと言われるイスラム教の決まりに沿って行います。その後、羊毛のついた皮をはぎ、家族総出で手早く作業が進められていきます。羊を捌くのは男性の仕事です。女性は



はその横で、内臓部位を洗い調理の準備をします。

◆かがわ国際フェスタ用コメント動画撮影

----- 撮影裏話

10月9日高松で開催されたかがわ国際フェスタ用にメディナ(旧市街地)にある歴史博物館前で動画撮影を行いました。メディナへの入り口にあたる場所のため、映像では私1人が映っていますが、目の前を多くの



人々が行き交い、視線のみならず、叫ばれた音が入ったり、映り込まれたりして、3分の動画でしたが、1時間を超える撮影になりました。撮影後は、珍しい日本人の私と写真を撮りたい女子大生に囲まれ、撮影会になりました(笑)



◆暑いモロッコ Meknès の夏

----- 未知の暑さ対策

私が今年メクネスで体験した最高気温は46℃です。基本的に家に引きこもりエアコンをつけますが、暑くて何もできず、夜は眠れません。家の中でも、常に水を入れ凍らせたペットボトルを抱えて過ごします。外出する際は、全身を覆い、凍らせたペットボトルと冷水の入ったタンブラーを持ち、日陰を探しながら移動します。それでも



外気は室外機の前にいるような熱い空気とグリルで焼かれる肉の気分を味わえるほどの陽射しです。そんな中、暑さにやられた身体に差し出されたモロッコの甘すぎる熱いミントティーが身体をよみがえらせるようでした。